

去る3月9日神戸国際会議場メインホールで、学校事務を一緒に考えている人間であることを宣言してくださいました、京都産業大学文化学部教授 西川信廣様に「学校教育における共同実施の役割 ～広がる学校間連携の視点から～」についてご講演いただきました。

## 学校事務セミナー報告

子どもの学力の実態や子どもを取り巻く環境の変化などの報告を踏まえ、学校は深刻化しているにもかかわらず、学校の組織マネジメント（経営管理）や学校経営をシステム化する努力がなされていない。これからの組織は環境の変化、周囲のニーズの変化に対応しなければいけない。

学校で必要なリーダーシップには、3段階ある。

- ①教育的リーダーシップ
- ②文化的リーダーシップ
- ③変革志向的リーダーシップ（transformational leadership）

近年は、組織そのものが常に新しく変わっていきけるような柔軟なリーダーシップ（変革志向的リーダーシップ）が求められている。

また、共同実施においては制度改革から意識改革を誘導することが有効であり、事務職員も『共同実施』を機能成長の手段ととらえることが重要である。

共同実施をするには学校間連携が必要になり、学校間連携を行うためには会議が必要になる。そのための情報の集約を事務職員が行いそれを発信する。事務職員が目指すものは、なくてはならない存在であることを示すことである。

そのためには教育改革を推進していくという自覚を持つこと（教育改革推進事務）。そして職務の明確化や教育支援事務を基盤とした学校事務職員の職務改革が必要である。

また、学校事務改革は学校改革と一体化して進むべきである。（教育委員会・校長会にも発信すること）制度改革から意識改革へ到達目標を設定することが学校改革を担う共同実施といえる。

学校事務職員というのは子どもたちと共に歩んで 学校教育をよりよく変えていくための職種である。

## 西川様から研究会へのメッセージ

研究とは、一般化・抽象化することである。

様々な事例の中で共通するものは何か。それを一般化できるものと抽象化するものに分けることが研究である。今、多様化した事務をそれぞれの地域で研究しているが、個々の状況や課題を理解しながら研究の方向性を見つけなければ点で終わってしまう。その点を広げていくこと・交流することも大事である。



## 第9回研究大会(和歌山大会)実行委員 活動近況報告

第9回近畿地区公立小中学校事務研究大会（和歌山大会）は平成20年8月22日（金）に和歌山市の和歌山市民会館で開催することになりました。

現在まで、2回の実行委員会を実施し、基本方針の確認と会場選定、各府県の役割分担の確認、大会要項、スケジュール、予算等についての検討を行いました。

会場は交通の便利な和歌山市民会館に決定し、研究大会の日程は、午前中全体会、午後分科会としました。

各府県の役割分担は次の通りです。

奈良県・神戸市⇒受付・接待

滋賀県⇒資料

京都市⇒運営・進行

大阪府⇒広報・記録

和歌山⇒経理・庶務・会場・宿泊・交流会

また主管する和歌山県では、実行委員会の協議内容を受け具現化するため、近畿大会担当者13名からなる現地実行委員会を3月に組織しました。今後、大会運営等に関わり実行委員を支援していきます。

現在、6月に開催する第3回実行委員会に向け

大会テーマ・目的、午後の分科会運営について担当支部との調整を行っています。

また、広報係では、

第1回PR紙を8月に発行する予定です。



和歌山城

## 調査研究部 活動近況報告

昨年新体制で動き出した調査研究部は、平成20年夏の全事研発表に向け順調に滑り出しました。

具体的なテーマ設定はまだできていませんが、まずメンバー全員がそれぞれの学校で新たな実践を展開し、その体験の中から見えてきたものや感じたことをベースに研究発表へ繋げていくことを確認しました。個々の実践事例や抱負を話し合う中で、今後1年間を通して取り組みたいことを大きく二つに分類し、実践研究班を構成しました。

一つは、「スクールガイド」作成を活動の柱とするグループ。もう一つは「子どもとの関わり」について仕事と関連づけた実践を進めるグループです。

「スクールガイド」班は、先行実施しているモデルを参考に、それぞれの職場向きにアレンジすることを管理職や教務・生指担当者と共に考え始めています。

また、小中連携版のスクールガイドに取り組み始めたところもあり、色々なバージョンのスクールガイドができあがりつつあります。

「子どもとの関わり」班は、様々な仕事の中で子どもや保護者を中心に据えた取り組みを出し合いながら、学校事務職員として関わっていけることなどを模索しています。

いずれのグループも実践を通して、学校事務職員の視線で学校教育への提言を行うことを意識しながら活動を始めました。

あくまで手段としての取り組みであり、具体的な実践から得た経験を元に学校事務職員の将来像を考えていきたいと思っています。